



# ふじ美が原

富士見中学校

『はじめの一步』は小さな一步だけれど、歩き続けていれば、やがて遠いところや高いところにたどり着くことができる。

特集：二学期始業式



富弘美術館は、群馬県のみどり市という所にあります。富士見中学校はここです。その日は伊那市の自宅から出かけました。車で片道四時間ほどの距離でした。

さて、私からは、「全ては〇〇から始まった」という話をしたと思います。この夏のある一日を利用して、私は、富弘美術館に行ってきました。一学期、みんなで星野富弘さんの詩画展を観に行ったり、道徳講演会として富弘美術館の聖生清重館長さんのご講演を聴いたりしました。私自身も以前から星野さんのことは知っていましたし、詩画集も読んでいました。富弘美術館には実際に行ったことがありませんでした。富士見中学校で星野さんの世界に改めて触れることができたのも何かの縁だと思いき、思い立ったら実行しよう、ということで行くことにしました。

【二学期始業式、学校長のお話】  
持ち物の準備や挨拶等の生活面のこと、生徒会活動のこと、クラスに関すること、そして三年生は進路に関わること、三人の皆さんが、これまで自分分を振り返り、どんな自分になりたのかを考えて決めた目標を発表してくれました。皆さんも、二学期が始まるこの節目に、ぜひ自分の目標を決めて取り組んでいってほしいと思います。

実際に歩いてみると、草木湖と呼ばれるようです。星野さん

んは、こうしたとても緑豊かな自然の中で幼少時代を過ごされたんだなあと、これが、めったにこんなことはないという自撮り写真です。ここに「富弘美術館」と書いてあります。

私は、こうしたとても緑豊かな自然の中で幼少時代を過ごされたんだなあと、これが、めったにこんなことはないという自撮り写真です。ここに「富弘美術館」と書いてあります。

私の記憶が正しければ、確かこういうことだったと思います。星野さんが入院していたとき、同室で仲良くしていた子が退院することになり、皆で寄せ書きをしようということになった。その時星野さんは、口でペンを加え、家族の方に手伝ってもらって名前の一文字を書いた。正確に言うなら、「富弘」と書こうとして「富」は何とか書いたのだけれど、最初からうまく書くことはできず、「富」の上に染みのようになってしまった点をうまく使って「お富」と書いた。退院する子は、それを見てとても喜んでくれた。この出来事をきっかけに、星野さんは、自分が動かせる口を使って、字を書いてみたいと思うようになった。そして練習を始めた。確かこういうことだったと記憶して

（四つの詩画を紹介）  
さて、皆さんは、星野さんの詩画制作がどのように始まったのかについて、覚えていてくださいますか？ あるいは、知っていらっしゃるでしょうか？

練習を始めた星野さんが初めて書いたカタカナ。皆さんも見たことがあるのではないかと思います。これです。一文字を書くだけでもとても時間がかかったと思います。もし全く事情を知らない人がこの字だけを見たら、「上手じゃないなあ」とか「とても小さい子が書いたのだろう」とか、そう思うと思います。

